

事前評価個表

整理番号	89
------	----

地域（地区）名	<small>おおいたほくぶ</small> 大分北部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	大分県	対象市町村	別府市ほか6市町
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本計画区は大分県の北部に位置し、東に国東半島の両子山系、南は一尺八寸山から人見岳を経て由布岳、西は犬ヶ岳、英彦山による山々の稜線に、北は周防灘から伊予灘及び東にかけて別府湾の海岸に囲まれている6市1郡（1町）を包括する区域面積193,303haの地域である。</p> <p>このうち民有林森林面積は116,425ha（民有林率60%）となっており、スギ・ヒノキを主体とした人工林面積は53,214ha（人工林率46%）で県平均58%を下回っている。</p> <p>また、基盤整備の状況は、林道526km（密度4.52m/ha）、作業道731km（密度6.28m/ha）が既に整備されているが、県平均路網密度の林道4.56m/ha、作業道9.13m/haをともに下回っている。</p> <p>当事業計画区内の森林資源の現状は、近年の木材価格の低迷等から適切な森林施業がなされず、8歳級以上の森林が62%と高齢級の森林が増加し偏った年齢配置となっている。</p> <p>本計画に基づき、適正な施業を計画的に実施していくとともに、間伐と一体的に丈夫な路網整備を推進し、施業の集約化と低コスト化を図る。このことにより、間伐材の利用が促進され、地域の活性化と森林の持つ公益的機能の維持増進を図ることが可能となる。</p> <p>なお、他事業との連携等に関しては、森林基盤整備事業（農山漁村地域整備交付金）並びに美しい森林づくり基盤整備交付金と連携を保ちながら事業を実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：18,000ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道開設等</p> <p>総事業費：5,854,434千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 4.79
評価結果	<p>必要性：地域材の利用促進と森林の持つ公益的機能を発揮させるためには、適正な森林施業の推進を図ることが重要である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：地域の特性、森林資源の状況並びに自然条件等を総合的に勘案した計画となっており有効である。</p> <p>本計画は、森林の公益的機能を発揮するために効率的・効果的な森林整備が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

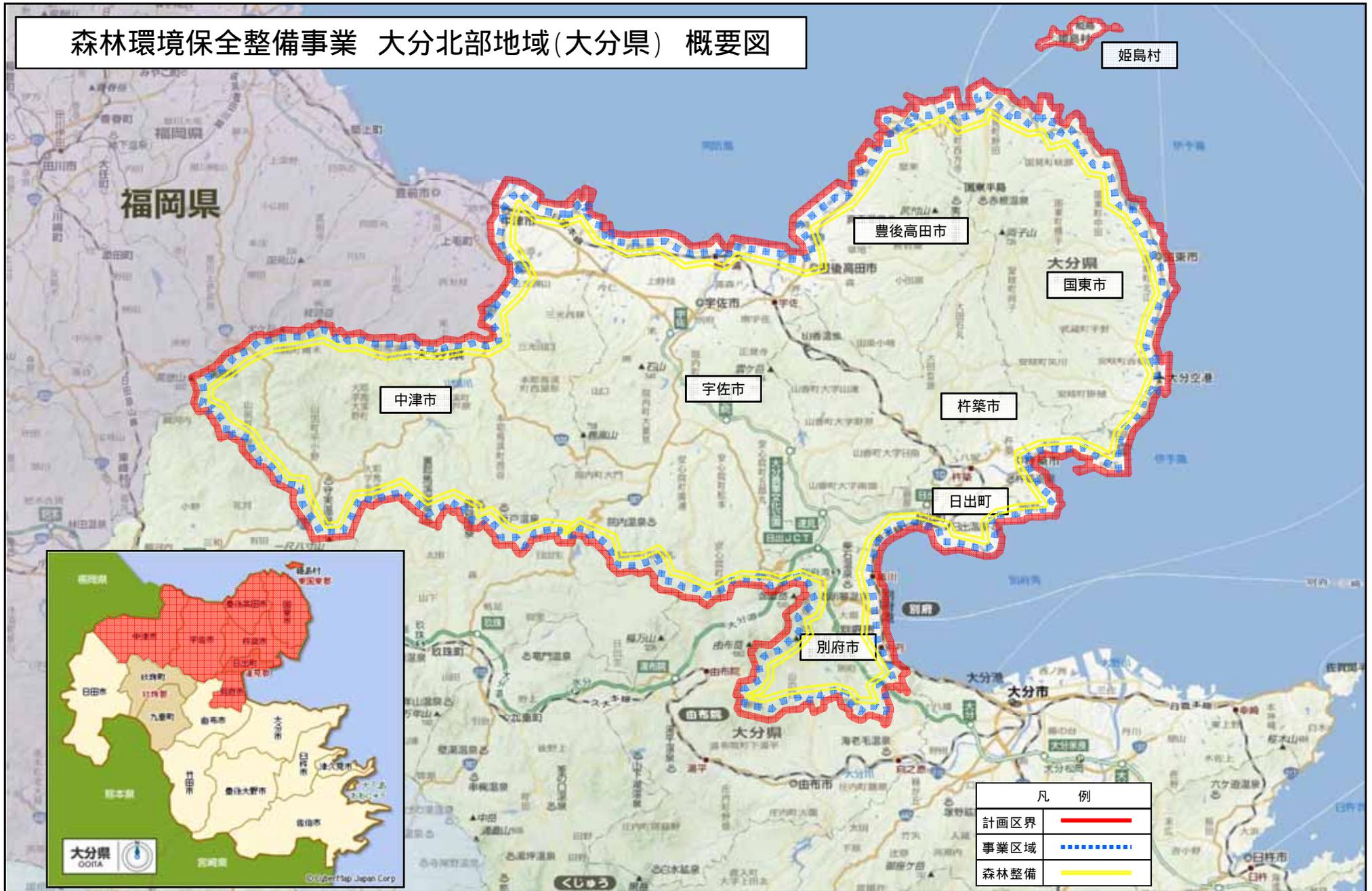
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 大分北部

大分県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	15,619,112	
	流域貯水便益	4,018,272	
	水質浄化便益	6,859,976	
山地保全便益	土砂流出防止便益	13,449,471	
	土砂崩壊防止便益	610,598	
環境保全便益	炭素固定便益	5,994,988	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	9,594,194	
総 便 益 (B)		56,146,611	
総 費 用 (C)		11,705,613	
費用便益比	$B \div C = \frac{56,146,611}{11,705,613} = 4.79$		

森林環境保全整備事業 大分北部地域(大分県) 概要図



姫島村

豊後高田市

大分県
国東市

中津市

宇佐市

杵築市

日出町

別府市

凡 例	
計画区界	— (Red solid line)
事業区域	⋯⋯ (Blue dotted line)
森林整備	— (Yellow solid line)



大分県
OITA

Copyright © The Japan Corp

事前評価個表

整理番号	90
------	----

地域（地区）名	<small>おおいたちゅうぶ</small> 大分中部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	大分県	対象市町村	大分市ほか5市
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	県、市、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本計画区は県都大分市を流れる大野川、大分川の流域を中心に、北は由布・鶴見山系、西はくじゅう山系、南は祖母山系の山々の稜線に、東は佐賀関半島から臼杵湾、津久見湾、四浦半島の海岸に囲まれている6市を包括する区域面積227,186haの地域である。</p> <p>このうち民有林森林面積は133,337ha（民有林率59%）となっており、スギ・ヒノキを主体とした人工林面積は61,684ha（人工林率46%）で県平均58%を下回っている。</p> <p>また、基盤整備の状況は、林道528km（密度3.96m/ha）、作業道1,270km（密度9.53m/ha）が既に整備されているが、県平均路網密度は林道4.56m/ha、作業道9.13m/haとなっており、林道は県平均より低い、作業道においては高い状況となっている。</p> <p>当事業計画区内の森林資源の現状は、近年の木材価格の低迷等から適切な森林施業がなされず、8歳級以上の森林が60%と高齢級の森林が増加し偏った年齢配置となっている。</p> <p>このことから、利用間伐を中心とした森林整備を実施し、地域の活性化と健全な森林資源の維持増進を図る必要がある。</p> <p>本事業を適正かつ計画的に実施していくことにより、間伐等の森林整備と一体的に丈夫な路網整備が推進され、施業の集約化と低コスト化が進み、間伐等実施林分における搬出率の増加にともなう間伐材の利用促進と、地域の活性化、森林の持つ公益的機能の維持増進を図る。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：19,200ha 人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：5,952,221千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.20
評価結果	<p>必要性：地域材の利用促進と森林の持つ公益的機能を発揮させるためには、適正な森林施業の推進を図ることが重要である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：地域の特性、森林資源の状況並びに自然条件等を総合的に勘案した計画となっており有効である。</p> <p>本計画は、森林の公益的機能を発揮するために効率的・効果的な森林整備が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 大分中部

大分県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	17,505,063	
	流域貯水便益	4,784,367	
	水質浄化便益	8,167,849	
山地保全便益	土砂流出防止便益	13,567,420	
	土砂崩壊防止便益	1,178,548	
環境保全便益	炭素固定便益	6,319,772	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	10,158,442	
総 便 益 (B)		61,681,461	
総 費 用 (C)		11,841,527	
費用便益比	$B \div C = \frac{61,681,461}{11,841,527} = 5.20$		

森林環境保全整備事業 大分中部地域(大分県) 概要図



凡 例	
計画区界	— (Red solid line)
事業区域	⋯⋯ (Blue dashed line)
森林整備	— (Yellow solid line)

事前評価個表

整理番号	91
------	----

地域（地区）名	<small>おおいたなんぶ</small> 大分南部地域	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	大分県	対象市町村	佐伯市
事業実施期間	H23～H27（5年間）	事業実施主体	県、市、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本計画区は、大分県の南部に位置し、東は豊後水道、西に位置する傾山から、北東へ三国峠、佩楯山、中ノ谷峠、彦岳を経て四浦半島に至る山地と、傾山から南東へ宮崎県境の夏木山、宗太郎峠、陣ノ峰を経て日向灘に通じる山地に囲まれている佐伯市1市を区域とする面積90,344haの地域である。</p> <p>このうち民有林森林面積は64,362ha（民有林率71%）となっており、スギ・ヒノキを主体とした人工林面積は35,054ha（人工林率54%）で県平均58%を下回っている。</p> <p>また、基盤整備の状況は、林道429km（密度6.67m/ha）、作業道838km（密度13.00m/ha）が既に整備されており、県平均路網密度の林道4.56m/ha、作業道9.13m/haをともに上回っている。</p> <p>当事業計画区内の森林資源の現状は、近年の木材価格の低迷等から適切な森林施業がなされておらず、8歳級以上の森林が64%と高齢級の森林が増加し偏った年齢配置となっている。</p> <p>このことから、利用間伐を中心とした森林整備を実施し、地域の活性化と健全な森林資源の維持増進を図る必要がある。</p> <p>本事業を適正かつ計画的に実施していくことにより、間伐等の森林整備と一体的に丈夫な路網整備が推進され、施業の集約化と低コスト化が進み、間伐等実施林分における搬出率の増加にともなう間伐材の利用促進と、地域の活性化、森林の持つ公益的機能の維持増進を図る。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：16,980ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：5,777,070千円</p>
費用対効果分析結果	B/C = 5.33
評価結果	<p>必要性：地域材の利用促進と森林の持つ公益的機能を発揮させるためには、適正な森林施業の推進を図ることが重要である。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：地域の特性、森林資源の状況並びに自然条件等を総合的に勘案した計画となっており有効である。</p> <p>本計画は、森林の公益的機能を発揮するために効率的・効果的な森林整備が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 大分南部

大分県
 (単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源かん養便益	洪水防止便益	17,739,194	
	流域貯水便益	5,135,925	
	水質浄化便益	8,768,030	
山地保全便益	土砂流出防止便益	12,011,860	
	土砂崩壊防止便益	1,012,030	
環境保全便益	炭素固定便益	5,468,501	
木材生産便益	木材生産確保・促進便益	8,504,342	
総 便 益 (B)		58,639,882	
総 費 用 (C)		10,985,494	
費用便益比	$B \div C = \frac{58,639,882}{10,985,494} = 5.33$		

森林環境保全整備事業 大分南部地域(大分県) 概要図

